

# 国立情報学研究所ニュース

## No.26 February 2005 平成17年2月

データ化  
アーカイブ化

撮影

活用

ものプロジェクト～「失われゆく知」のキャプチャから活用まで～  
芸術表現活動のマルチメディア・アーカイブ化とアーカイブ構築  
支援・提供システムに関する研究 (P.1 解説参照。)

### 公募型研究 No.6 制約プログラミングに関するワークショップ型共同研究

国立情報学研究所 細部 博史 / 佐藤 健

- 2 **研究活動** 擬人化キャラクタ・インタフェース／中国清華大学を訪問／高性能コンピューティング技術の世界的な国際会議であるSC2004にNAREGIブースを出展／第2回日仏グリッドコンピューティング・ワークショップの開催／NII研究員の紹介
- 5 **大学院教育** 総合研究大学院大学情報学専攻入試説明会／大学院生紹介
- 6 **事業活動** 平成16年度 国立情報学研究所公開講演会／「平成16年度 第1回電子図書館サービス連絡会議」の開催／国立情報学研究所が第6回図書館総合展に招待出展／第6回図書館総合展フォーラム－学術コミュニケーションの最先端：オープンアクセスとセルフアーカイブの開催／日韓 ILL/DD 暫定サービスの運用開始／大学図書館等関連事業説明会 ～ NII Library Week 2004 ～ の開催／日本研究情報専門家研修への協力
- 9 **トピックス** 軽井沢土曜懇話会 (平成16年11月20日)／平成16年度 NII市民講座「8語で深める情報学」(平成16年11月18日・12月16日)／国立情報学研究所留学生等と神田古書店街との国際交流の集い／図書館相互利用協定を明治大学との間で締結／ケニア・ナイロビ大学図書館長の来訪／中国国家図書館代表団の来訪／名誉教授の称号授与／国立情報学研究所永年勤続者表彰について／知的財産本部ニュース

# 制約プログラミングに関するワークショップ型共同研究

制約プログラミングは、制約を用いた計算手法の総称であり、近年急速に発展し、注目を集めている技術である。制約とは、問題を構成する対象間の関係を表すもので、制約プログラミングでは、問題を制約の観点から宣言的に自然な形でモデル化し、さらに制約解消と呼ばれる技術により自動的に解くことが可能である。制約プログラミングは、スケジューリング等の種々の問題解決や、ソフトウェア開発など、多様な分野に応用可能である。

本共同研究では、早稲田大学の上田和紀教授を代表者として、国内の大学と研究所に所属する12名の研究者によるワークショップ型の共同研究を行っている。その目的は、制約プログラミングに関する種々のテーマについて、人工知能やソフトウェアなどを背景とした観点から議論を行うことを通じて、制約プログラミングのさらなる展開を図ることである。研究テーマとしては、基礎から応用に至る幅広い範囲を対象とし、具体的には、柔軟な制約、幾何制約、インターバル制約などを基本として、制約論理プログラミングや、並行制約プログラミング、制約に基づくユーザインタフェースなどを対象としている。また、メタヒューリスティクスや数式処理など、制約プログラミン

グに関連のある技術も積極的に導入していくことで、制約プログラミングの新たな展開を試みている。

本共同研究による第1回のワークショップは、平成16年10月25日から27日まで国立情報学研究所において、「制約プログラミングに関する日仏ワークショップ」と題して開催された。本ワークショップでは、本共同研究の参加者らによる11件の研究発表に加えて、フランス人研究者による13件の発表も行われた。これは、在日フランス大使館の協力を得ることで実現されたものである。また、さらに、シンガポール国立大学のKrzysztof R. Apt教授による招待講演も行われた。これらの招待講演や研究発表では、最新の研究成果の報告だけでなく、特定の研究テーマに関する解説や、今後の研究に対する展望の報告などがなされ、参加者の間で活発な議論が交わされた。

今後も本共同研究の枠組みを通じて、制約プログラミング分野における研究者間の交流を促進し、研究を活発化させていきたいと考えている。

(実証研究センター共同研究企画推進室 助教授 細部 博史 / 情報学基礎研究系記号科学研究部門 教授 佐藤 健)

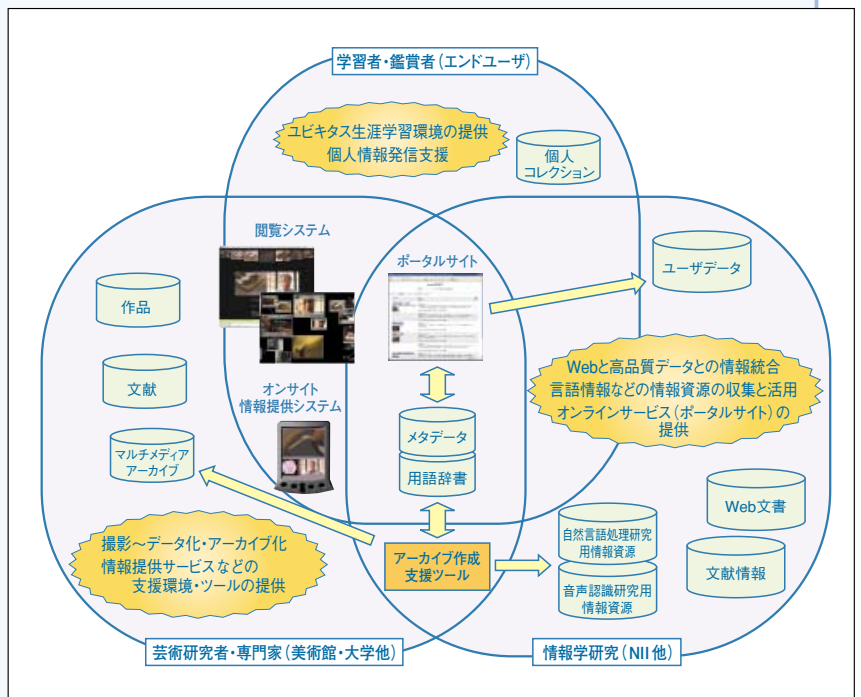
## 表紙解説 「ものプロジェクト」 ソフトウェア研究系 助教授 相原 健郎 / 実証研究センター 教授 高須 淳宏

「ものプロジェクト」は国立情報学研究所情報学資源研究センターにおける共同研究プロジェクトとして、東京芸術大学および岩手県立大学とのコラボレーションによって2000年より進められている。

このプロジェクトの目的は、芸術家や匠などが持つ、このまま放っておくと失われて行ってしまう「知」の共有・継承のために、美術工芸品を対象とした高品質かつ多様な情報を含んだ「芸術表現活動アーカイブ」の構築とその方法論、および支援や提供システムなどの探求にある。ここでは、単に対象物の高精細な画像・映像などの視覚的な情報を記録するだけでなく、その制作の背景、プロセスなど、人間の創造的な側面についての定性的情報をも含む「芸術表現活動」をアーカイブすることを特徴としている。

プロジェクトでは、インタビューを中心とした会話映像を中心的なコンテンツとして位置づけている。プロジェクトは、その収集(インタビュー)からアーカイブ化までの美術館支援(ノウハウのマニュアル化と支援システム)、インターネット上の情報資源とアーカイブとの統合的活用のための専門用語辞書構築、さらに美術館でのオンサイト情報提供やネット上でのオンライン情報提供を生涯学習という観点から包括的に支援する学習支援(エンドユーザ支援)までを対象としており、これらがポータルを中心として有機的に連携する方策の提案を目指している。

<http://research.nii.ac.jp/mono/index.ja.html>



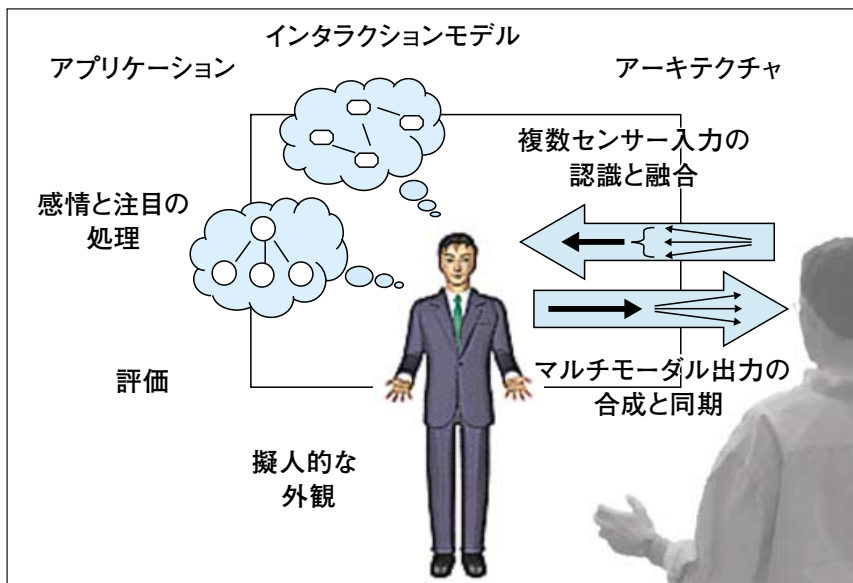
## ■ 擬人化キャラクタ・インタフェース

擬人化キャラクタ・インタフェースは、擬人化されたバーチャル・エージェントを用いて、人間の対面型のコミュニケーションを模倣するコンピュータインタフェースである。エージェントは発語、表情およびジェスチャという形態でマルチモーダルな動作を示すばかりでなく、ユーザを知覚し、限られた範囲ではあるが、理解する場合もある。キャラクタに基づくインタフェースの顕著な特徴は、言語的かつ非言語に感情を表現したり、ユーザの感情の状態を認識したりすることによって、ユーザとの感性的コミュニケーションを支援することである。感性的インタラクションは、オンライン製品のプレゼンテーションやeラーニングから情報キオスクやインタラクティブエンターテインメントまで、数々の成功したキャラクタアプリケーションの基礎をなしている。

私は、ユーザが自然に、かつ効果的にコンピュータとコミュニケーションができるインタフェースを作り上げるとい目的のもと、擬人的なキャラクタと感性的コンピューティングを研究の関心としている。そこで私は、特に感情的状態を認識するためのバイオシグナルやユーザの注意の焦点を追跡するための眼球運動といった生理的ユーザデータのモデル化や処理、擬人化キャラクタのデザイン、オーサリングおよび評価に

携わっている。さらに大まかな見通しとしては、(ユビキタスで知的な) 周辺環境でのマルチモーダル・インタラクションの実現を考えている。

文献: Helmut Prendinger and Mitsuru Ishizuka (Eds.), Life-Like Characters: Tools, Affective Functions, and Applications. Cognitive Technologies Series, Springer, Berlin Heidelberg, 2004



(情報メディア研究系画像情報処理研究部門 助教授 Helmut Prendinger)

## ■ 中国清華大学を訪問

平成16年11月9日から11月10日にかけて本研究所 羽鳥光俊名誉教授、山田茂樹教授と国際課 松下国際企画係長が清華大学を訪問、同大学との教育・研究交流についての協議を行いました。

清華大学との交流は、羽鳥光俊名誉教授が本研究所在職時に同大学 Gong Ke 副学長と交流を始めたのがきっかけで、現在、同大学からは総合研究大学院大学情報学専攻に留学生を1名受け入れています。

9日のGong 副学長との会談では羽鳥名誉教授も同席し、両者で今後一層の研究協力・学生交流を進めていくことが合意されました。また、電子工程系のFeng Zhenghe 主任ともお会いし、今後交流を深めることで合意しました。

翌日は深圳市にある清華大学深圳研究生院のLin Xiaokang 副院長を訪問し、教育・研究交流について話し合いました。また、山田茂樹教授が当地の学生を対象に特別講義を行いました。

(国際課)



Gong Ke 副学長(中央)らと会談する羽鳥 名誉教授(左から2人目)と山田 茂樹 教授(左端)

## 高性能コンピューティング技術の世界的な国際会議であるSC2004にNAREGIブースを出展

高性能コンピュータとネットワークの分野で最も先端的で、権威あるSC (Supercomputing Conference) 2004国際会議 (URL: <http://www.sc-conference.org/sc2004/welcome.html>) に超高速コンピュータ網形成プロジェクト (National Research Grid Initiative 通称NAREGI) (URL: <http://www.naregi.org>) ブースを出展しました。

SC2004は年に一度、コンピュータ、ネットワーク関係の科学者、技術者、研究者、教育者、プログラマ、システム管理者およびマネージャを一堂に集め、展示、講演、教育指導等を行うものです。今年は、11月6日から12日までアメリカ合衆国ペンシルベニア州ピッツバーグで行われました。

NAREGIでは、開発を進めている、サイエンスグリッドを構築するグリッドミドルウェアのデモンストレーション、グリッド環境における先進的な研究開発例であるグリッド連成解析のデモンストレーション、ネットワーク制御のデモンストレーションを行いました。ブースには著名な研究者の方々をはじめ、900名ほどの方にNAREGIブースを見ていただき、有益な議論をしていただきました。我々のデモンストレーションを見て、他の研究機関から研究協力の話が出るなど、NAREGIを世界へ向けてアピールする有効な展示となりました。

(企画調整課)



著名な研究者の方々との議論



SC2004 NAREGIブース

## 第2回日仏グリッドコンピューティング・ワークショップの開催

平成16年12月13日から14日まで、NIIにおいてINRIA (Institut National de Recherche en Informatique et Automatique) と共催で第2回日仏グリッドコンピューティング・ワークショップが開催されました。昨年3月の第一回のパリでのワークショップの成功を受け、INRIAの方からぜひ第2回を日本で開催してほしいとの要望があり実施したものです。前回は日仏で進行中のグリッド関連プロジェクトを互いに紹介し合うことが主目的でしたが、今回は共同研究・連携を念頭に具体的に議論することが中心となりました。フランスからは総勢12名、日本側からは23名が参加しましたが、NIIからはNAREGI

連携研究センターの三浦教授 (Co-chair)、アンジェリノ客員教授ほかNAREGIの関係者が参加しました。1日半にわたり、

ワークショップ参加者の面々



日本側からはNAREGIのアップデートをはじめ、ITBL、理化学研究所、産業技術総合研究所のネットワーク計測プロジェクト、筑波大学とINRIAとの共同プロジェクト、九州大学のネットワーク研究などに関する発表が、フランス側からはEUのCOREGRID, Virtual Observatory, Grid5000, RESO (高速ネットワーク) などのプロジェクトの発表があり、その後テストベッド、ミドルウェア、ネットワーク計測等の共同研究の可能性のあるテーマについてさらに議論をおこないました。二日目の午後からは筑波地区の見学と、NAREGI拠点での研究者を交えての個別議論をおこないました。フランス側からは今回も非常に充実したワークショップであったとのコメントをいただきました。



ワークショップの様子

(リサーチグリッド連携研究センター長／情報基盤研究系ハイエンド・コンピューティング研究部門 教授 三浦 謙一)

## NII 研究員の紹介

情報メディア研究系 研究機関 プロジェクト研究員

### 佐藤 園子

(さとう そのこ)

1991年 図書館情報大学で学士号(図書館情報学)を取得  
1994年 早稲田大学で学士号(文学)を取得  
1996年 同大学で文学修士号を取得  
1999年 同大学で文学博士号課程修了



2003年6月から、研究機関プロジェクト研究員としてNIIのデジタル・シルクロードプロジェクトに参加しています。デジタル・シルクロードプロジェクトでは幾つかの共同研究を行っていますが、私はその中の「東洋文庫所蔵」画像マルチメディアデータベース構築研究に携わっています(<http://dsr.nii.ac.jp/toyobunko/>)。このプロジェクトは2002年、山本毅雄教授を発起人としてスタートしました。

東洋文庫とは、東洋学に関する貴重な史料を有する専門図書館兼研究所であり、所蔵するコレクションは世界の五指に入るとされています。殊に海外の研究者に広く知られていますが、史料利用者はこれまで限られていました。今回のNIIと東洋文庫の共同研究は、東洋文庫所蔵の価値ある史料をデジタル化することで、幅広い国内外の人々や研究者に貴重書を全文公開し、さらに検索機能を備えたシステムで、より一層史料を活用してもらうことを趣旨としています。本プロジェクトで、私は貴重史料選択のための

内容調査と検討、デジタル・テキスト化する上でのデータ整備、史料に対するメタデータ付与に関する研究などを担当しています。

私はこれまで東洋美術史を研究してきた文系であり、史料を実際に利用する立場からシステムの開発に寄与することを自らの役割と考えています。NIIの理工系らしい学問体系と研究方法にはじめは戸惑うこともありましたが、試行錯誤しながらこれまで続けて来て、現在は厳しくも伸びやかな研究の気風に非常な魅力を感じています。

## ■ 総合研究大学院大学情報学専攻入試説明会

総合研究大学院大学情報学専攻では、平成16年11月29日(月) 研究所内において平成17年4月入学を対象にした入試説明会を開催しました。



個別相談会

説明会は13名の参加者があり、上野 専攻長、佐藤 健教授による説明のほか、在学生の小林 一樹、Alexander Kovacs 両君による学生生活の紹介が行われました。また、院生室、講義室、図書室等所内見学を行った後、希望者への個別相談会を実施しました。個別相談会では上野 専攻長を始め、佐藤 健教授、龍田 真教授、後藤田 洋伸助教授、古賀 崇助手が参加者の熱心な相談に対応しました。

(研究協力課)



概要説明

## 大学院生 紹介

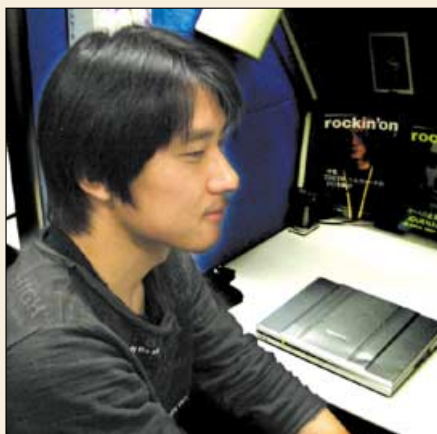
**尾崎 亮太** (おざき りょうた)

総合研究大学院大学複合科学研究科  
情報学専攻 博士課程 2年

私は、2003年3月に電気通信大学大学院修士課程を修了し、同年4月に総合研究大学院大学情報学専攻に入学しました。現在は、国立情報学研究所の丸山勝己教授の下で研究活動を行なっております。

本大学は施設が充実している点が特徴の一つだと思います。総研大本部である葉山キャンパスには宿泊施設が存在しており、私も研究室の合宿地として利用したことがあります。また研究所にはスポーツジムがあり、研究で擦り減る精神を鍛えることができます。

私の研究は他の学生とはやや異なり、情報学(Infomatics)というよりは計算機科学(Computer Science)の領域に近いと思いますが、教授陣は非常に充実しています。また単位互換制度も存在し、東京大学や東京工業大学の講



義を履修することもできます。私も東京大学の講義を履修しており、知識の拡充に役立てております。

私の研究は一言で言えばオペレーティングシステムです。人間とインタラクションするデバイスを持つ計算機が身の回りに増えてきております。このようなデバイスをより簡単に利用できる基盤ソフトウェアを設計し作成・評価を行なうことが研究のテーマとなっております。

最後に私事で恐縮ですが、私の机は「Nirvanaの机」\*と呼ばれています。身に余る光栄でございます。

\*)有名なロックバンドの名前

## ■ 平成16年度 国立情報学研究所公開講演会

国立情報学研究所公開講演会は、研究所の行う研究・開発等の普及を目的に、研究活動に関連した今日的課題について研究所内外の研究者が発表を行うもので、毎年1回、東西2会場において開催しています。

平成16年度は、「ユビキタス社会のガバナンス - 情報制度の明日を拓く-」をテーマとして開催しました。

総論として、当研究所 東倉 洋一 教授による「今、なぜ情報制度か!」と、基調講演として、岡村 久道 弁護士(国立情報学研究所客員教授)が「情報セキュリティと法制度」というテーマで講演を行った後、3名の講演がありました。

参加者からは、難しい内容もあったが、実際の政策の話なども聞いて楽しく有益だった等の感想が寄せられています。

なお、東京会場については、当日、独立行政法人メディア教育開発センターのSCSでの配信も行いました。また講演の内容は新書として刊行予定です。

公開講演会は以下のように行われました。

1. 日時・会場 ・東京会場 平成16年11月 5日(金) 13:00 - 17:00  
一橋記念講堂(学術総合センター)  
・京都会場 平成16年11月16日(火) 13:00 - 17:00  
キャンパスプラザ京都

2. テーマ 「ユビキタス社会のガバナンス  
- 情報制度の明日を拓く -」

### 3. プログラム

- 主催者挨拶 (東京会場) 国立情報学研究所長 末松 安晴  
(京都会場) 国立情報学研究所副所長 坂内 正夫
- 総 論 「今、なぜ情報制度か!」 講師: 東倉 洋一 (国立情報学研究所 教授)
- 基調講演 「情報セキュリティと法制度」 講師: 岡村 久道 (弁護士、国立情報学研究所 客員教授)
- 講 演 「デジタル著作権の技術・法・経済」 講師: 曾根原 登 (国立情報学研究所 教授)  
「電子商取引の制度的課題と将来像」 講師: 岡田 仁志 (国立情報学研究所 助教授)  
「情報セキュリティ政策の現状と展望」 講師: 高村 信 (総務省情報通信政策局情報流通振興課 情報セキュリティ対策室 室長補佐)
- 司会・進行 根岸 正光 (国立情報学研究所 教授 国際・研究協力部長)

(広報普及課)



東京会場：一橋記念講堂(学術総合センター)



京都会場：キャンパスプラザ京都

## ■ 「平成16年度 第1回電子図書館サービス連絡会議」の開催

会場の様子

国立情報学研究所では、平成17年4月から、現在の情報検索サービス(NACSIS-IR)と電子図書館サービス(NACSIS-ELS)を統合した新しい論文情報サービスを展開することを予定しています。この新しいサービスに関する説明会を、電子図書館サービスの参加学協会に対して、平成16年10月29日(金)に学術総合センタービルにて「第1回電子図書館サービス連絡会議」として開催し、128学協会・144名の参加がありました。連絡会議では、新たな論文情報提供サービスの利用形態、著作権使用料の設定、今後のスケジュール等について説明を行い、各学協会での検討をお願いしました。

連絡会議後に学協会から寄せられた意見を受けてさらに詳細を決定し、第2回連絡会議を平成17年2月に開催する予定です。



(コンテンツ課)

## ■ 国立情報学研究所が第6回 図書館総合展に招待出展

国立情報学研究所は平成16年11月24から26日まで、パシフィコ横浜で行われた図書館総合展にブースを設けて研究所の事業等の紹介を行いました。図書館総合展は、図書館総合展運営委員会が主催、文部科学省、国立国会図書館などが後援する図書館に関わる様々な企業、関係者を集めて最新情報の提供と情報交換を目的とした総合展です。年々規模の拡大と内容が充実し、関係者においては中心的な展示会となっているため今年度初めて参加しました。

会場では Webcat Plus (本の連想検索サービス)、NACSIS-CAT/ILL (目録所在情報サービス)に加え、来年度正式サービスとなるGeNii (学術コンテンツ・ポータル)などの事業関係のシステムを中心に紹介し、また、新書マップ、東洋文庫、デジタルシルクロードなどの研究プロジェクトも併せて展示しました。

本展示会には約18,000名の来場者があり、国立情報

学研究所のブースにはそのうち約2,000名の人々が訪れ、関心の高さが窺えました。

(本研究所主催のフォーラムについては下記の記事をご覧ください。)

(広報普及課)



会場の様子

## ■ 第6回 図書館総合展フォーラム ー学術コミュニケーションの最先端：オープンアクセスとセルフアーカイブー の開催

第6回図書館総合展(平成16年11月24日～26日)において、国立大学図書館協会・私立大学図書館協会の後援を得て、標記のフォーラムを開催しました(平成16年11月25日)。

Stevan Harnad 教授 (Canada Research Chair in Cognitive Science, University of Quebec at Montreal) を招へいし、基調講演として“Maximizing Research Impact by Maximizing Research Access”とのテーマで、オープンアクセスが研究活動に与えるインパクトについて、オープンアクセス運動や機関リポジトリの動向や影響を示しながら紹介がありました。



会場の様子

土屋俊 教授(千葉大学教授、国立情報学研究所 客員教授)の司会のもと、111名の参加者を交えて、オープンアクセス運動の効果や学術コミュニケーションへの影響について、熱心に質疑応答が行われました。

このフォーラムの内容や資料は、国際学術情報流通基盤整備事業のHP(<http://www.nii.ac.jp/sparc/>)で公開しています。

(コンテンツ課)



Stevan Harnad 教授



## ■ 日韓 ILL/DD 暫定サービスの運用開始

平成16年11月22日から、日韓両国の大学間によるドキュメント・デリバリー・サービスの暫定運用（文献複写業務）を NACSIS-ILL システムで開始しました。海外の大学図書館との ILL/DD (Interlibrary Loan/Document Delivery: 図書館間相互貸借 / ドキュメント・デリバリー) サービスの拡充としては、平成14年4月開始の日米間のドキュメント・デリバリー・サービスに続くものです (No.10(2002.6) 掲載)。このサービスによる文献入手及び提供を通じて、日韓両国の研究者や留学生などに対する、より一層の研究支援を実現することを目指しています。

暫定サービスの開始にあたっては、国立大学図書館協会及び国公立大学図書館協力委員会と連携を図り、KERIS (韓国教育学術情報院) 及び韓国の大学図書館との運用テストの結果を踏まえて、平成16年9月にソウルで開かれた担当者会議で運用上の意見交換を行い合意にいたりました。

平成16年11月の暫定サービス開始時点での参加図書館数は、日本側が59、韓国側が226でした。平成17年中には現物貸借業務を加えるなど、今後もサービスの充実を図っていきます。

(コンテンツ課)



日韓 ILL/DD 担当者会議 (KERIS (ソウル) にて)

## ■ 大学図書館等関連事業説明会 ～ NII Library Week 2004 ～ の開催

NII が大学図書館等と連携して推進する事業についての説明会を、平成16年12月7日から17日にかけて全国5ヵ所 (札幌、東京、名古屋、京都、福岡) にて開催しました。

今年度は、NACSIS-CAT/ILL、学術機関リポジトリ、GeNii (NII 学術コンテンツ・ポータル) についての説明を行いました。それぞれの説明に先立って、「国立情報学研究所における学術情報基盤の整備」と題してコンテンツ関連事業の今後の方針の説明を行いました。NACSIS-CAT/ILL については「NACSIS-CAT/ILL の現状と課題」と題して、最近のトピックスと各システムにおける課題とその解決に向けての活動の紹介、「学術機関リポジトリ」では、メタデータ・データベース共同構築事業と学術機関リポジトリ構築ソフトウェア実装実験プロジェクトの紹介、「GeNii (NII 学術コンテンツ・ポータル)」では来年度以降の新しいサービス内容及び利用料金体系についての説明を行いました。

合計1,004名という多くの方の参加をいただき、各会場では活発な質疑応答が行われました。

(コンテンツ課)



東京会場



説明する 小西 開発・事業部次長

## ■ 日本研究情報専門家研修への協力

平成16年11月29日から12月17日の3週間にかけて、国際交流基金・国立国会図書館の主催、国際文化会館・国立情報学研究所の協力により、「日本研究情報専門家研修」が開催されました。本研修は、海外の日本研究情報を扱う専門家（司書等）を招へいし、日本関係情報やそのサービスに関する知識・技術の習得を目的としており、今年度は13か国から17名が参加しました。



ワークショップで発表する研修生

この一環として、12月6日、本研究所を会場とした研修を実施しました。本研究所の学術情報ネットワーク事業や学術コンテンツ構築・提供事業（目録所在情報サービス、学術機関リポジトリ、NII学術コンテンツ・ポータル）の紹介・実習と、国立大学図書館協会が本研究所等と協力して進めているGIF（国際ILL/DD）プロジェクトの説明を行いました。関連して、11月25日・26日に研修生を対象とした目録システム講習会を行い、希望者8名が参加しました。

また、12月9日には、本研修ワークショップ「デジタル時代の情報リテラシー教育：日本研究に関わる学術図書館を中心として」が開催され、研修生4名の発表があったほか、本研究所の成澤めぐみ研修係長（開発・事業部企画調整課）が、学術情報リテラシー教育担当者研修について紹介しました。

期間中、研修生から本研究所提供の学術情報サービス等について様々な質問が寄せられ、海外在住の日本研究関係者からの、本研究所に対する期待の大きさがうかがえました。

（企画調整課）

## Topics

### ■ 平成16年度 軽井沢土曜懇話会

軽井沢の国際高等セミナーハウスにおいて平成16年度軽井沢土曜懇話会の第8回（平成16年11月20日）を開催しました。その講演の様子を紹介します。また、この講演は国立情報学研究所のホームページで後日、オンデマンドで公開する予定です。

#### 第8回：平成16年11月20日（土）「コンテンツ産業がひらく21世紀」

東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授

**浜野 保樹**

（はまの やすき）

「わが国ではコンテンツ振興法が公布・施行され（平成16年6月4日）、先進諸国では国をあげてコンテンツ産業を支援育成している。これまであまり注目されなかったコンテンツ産業が、有望視されるに至った理由と経緯をデータをもとに明らかにし、さらにわが国のコンテンツ産業にとって何が必要かを研究開発の面からも検討する。」（当日配布資料より）浜野氏の活動も交えて分かり易くお話しいただきました。



（広報普及課）

## ■ 平成16年度 NII市民講座「8語で深める情報学」

第5回：平成16年11月18日(木)

### 「オープンソース」



国立情報学研究所 ソフトウェア研究系教授 主幹  
(兼任) 総合研究大学院大学 教授

### 丸山 勝巳 (まるやま かつみ)

1970年3月 東京大学大学院 修士課程修了。工学博士(東京大学)  
1970年 日本電信電話公社(現NTT) 武蔵野電気通信研究所入社  
1995年 国文学研究資料館・教授  
1998年 学術情報センター・教授  
2000年4月より 国立情報学研究所・教授  
専門は基盤ソフトウェア(OS、プログラミング言語、オブジェクト指向、分散処理、実時間処理)

大勢の優秀なプログラマーが精魂込めて設計、開発したソフトウェアを一般に無償公開するのは不思議でしょう。

ビル・ゲイツ「無報酬でプロの仕事をする余裕なんて、いったい何処の誰にあるのですか(Who can afford to do professional work for nothing?)。」「リーナス・トーバルス「そりゃ楽しいから(Just for Fun)。」

実は昔からソースプログラムの公開は行われており、それ

がソフトウェア技術の発展とインターネットの普及を支えてきました。最近では、Linuxの成功により、オープンソース流のソフトウェア開発やビジネスモデルが注目されています。

そこで、今回の市民講座では、実例と模倣で伝えられるプログラム技術の神髄やオープンソースにまつわる話題を取り上げてみました。

第6回：平成16年12月16日(木)

### 「e-ラーニング」



国立情報学研究所 情報学基礎研究系 助教授

### 新井 紀子 (あらい のりこ)

東京工業大学より 博士(理学) 取得  
1994年 広島市立大学情報科学部助手  
1996年 フィールズ研究所客員研究員  
1997年 トロント大学情報科学科客員研究員  
2001年 国立情報学研究所助教授  
専門は遠隔教育(システム開発、教育)、数理論理学

パソコンやコンピュータネットワークを利用して教育を行うこと全般を指して、遠隔教育(e-ラーニング)とよぶ。国内だけでも、1兆円産業に成長した、といわれているeラーニングであるが、一部では、撤退しているところもある。それはなぜか? e-ラーニング成功のカギとなるのは「誰がユーザか」「その教育で何を行いたいか」「何によって効果を計るか」を明確にし、

それに基づき、適切な教育の場デザインを行うことが重要である。

今回は、さまざまな教育のニーズと、それに適したe-ラーニングの方法について紹介するとともに、近年隆盛を極めている、ウェブ上のコミュニティサイトやWeblogの潜在的な教育力に着目し、ネット上に学びの場を創る、という観点から論を進めた。

(広報普及課)

## ■ 国立情報学研究所留学生等と神田古書店街との国際交流の集い

国立情報学研究所 (NII) と東京都古書籍商業協同組合は、地域文化振興及び国際文化交流活動の一環として、NIIで勉学・研究している留学生を対象に、平成16年11月30日、神田古書店街との国際交流を実施しました。

総勢50名近くの参加者は、二手に分かれて理工系図書専門の明倫館書店、古書店老舗の一誠堂書店、肉筆原稿専門店の八木書店古書部など明治時代からの歴史を誇る6店の古書店を見学し、書店の御好意で秘蔵稀観書などに実際に手を触れさせてもらう場面もありました。また、年1度の東京資料会大市会が行われる東京古書会館で業者間オークションの内覧も行われました。

NIIは、明治時代から出版・書籍販売が盛んで国際交流にも熱心な神田神保町一帯の古書店とは目と鼻の位置であり、このため、将来、自国のリーダーとなることが期待されているIT研究の最先端にある留学生に、日本文化に触れてもらおうと企画・検討していたもので、世界最大の古書店街として今なお発展を続けている

神田古書店の協力を得て、今回初めて実現しました。児童文化研究の第一人者で古書店評論家のアン・ヘーリング女史がガイドを務めました。

(広報普及課)



一誠堂書店の好意で稀観書に見入る留学生

## ■ 図書館相互利用協定を明治大学との間で締結

このたび、明治大学との間で大学院生を対象とした図書館相互利用協定を締結し、各々の所蔵資料の特徴を生かして相互の大学院生へのサービスを充実させることとしました。

国立情報学研究所では平成14年度より、総合研究大学院大学情報学専攻の博士課程院生を受け入れ、現在57名在籍していますが、収集資料は専門書主体であったため、学習書、一般書等の資料拡充が課題でありました。近隣にあり、総合大学として十分な資料を備えサービス面でも評価の高い明治大学との相互利用協定は、この点で非常に重要と言えます。当研究所では情報学研究機関としての特色を生かしたサービスを行う予定にしています。

これを機に、地域の図書館として相互に交流・協力を行うことを確認し、平成16年12月1日、調印式を行いました。

(広報普及課)



明治大学図書館での調印式の写真

## ■ ケニア・ナイロビ大学図書館長の来訪

平成16年10月5日(火)に、ケニア・ナイロビ大学図書館のSalome Mathangani 館長が来訪されました。

当日は、研究所の概要説明につづいて、小西 開発・事業部

次長より研究所の事業について説明を行いました。その後、Mathangani 館長から、我が国の機関リポジトリの状況に関して質問があり、この点を中心に意見交換を行いました。

(国際課)

## ■ 中国国家図書館代表団の来訪

平成16年11月11日(木)に、中国国家図書館代表団が来訪されました。

今回の来日は、国立国会図書館との業務交流によるもので、中国国家図書館からは張彦博副館長を筆頭に、5名の方々が本研究所へ来訪されました。

当日は、根岸 国際・研究協力部長による研究所の概要説明、

小西 開発・事業部次長による事業説明の後、意見交換を行いました。中国国家図書館は、本研究所のNACSIS-CAT参加館でもあるため、その立場からの質疑等が寄せられました。

中国国家図書館とは、NACSIS-CAT参加館としての協力関係だけでなく、今後はさらに進んだ協力関係を構築して行きたいとのことで合意しました。

(国際課)

HOT NEWS

## NII国際シンポジウムの開催

NII国際シンポジウム(第3回、第4回)を次のように開催します。

### 第3回 e-バイオロジーイニシアティブ:新しい生物学の開拓 e-Biology Initiative: Towards New Frontiers of Biology

ゲノム研究がきっかけとなり、大量の生物情報がDBもしくは出版物の形態で存在する状況が発生しました。一方で、計算機の処理能力、記憶容量も格段の進歩を続けており、複雑で雑多な生物情報についても、計算機を利用することで、知識、テキスト、概念や認識などの共有化による新しいライフサイエンスのスタイルを生み出す可能性があります。

このシンポジウムでは、生物学、情報学の関連分野の研究者が一堂に会して突っ込んだ意見交換を行い、現状における諸問題を認識すると共に、将来の展望を明示することを目指します。

開催日時:平成17年3月11日(金) 9時30分~17時45分

会場:東京大学 武田ホール(東京都文京区弥生)  
本郷キャンパス浅野地区 武田先端知ビル 5階

共催:21世紀COEプログラム

言語から読み解くゲノムと生命システム 一次世代のバイオインフォマティクス拠点の創成一  
代表者:高木利久(東京大学 新領域創成科学研究科 教授)

科学技術振興事業団:戦略的基礎研究推進事業(CREST)

高度メディア社会の生活情報技術:「情報のモビリティを高めるための基盤技術」

代表者:辻井潤一(東京大学 情報学環 教授)

参加費:無料(ホームページより登録が必要です。)

### 第4回 本の未来・未来の本についてのシンポジウム International Symposium on the Future of the Book

デジタル技術の急速な発展にも関わらず、文化の記憶としての重要な知識のほとんどは、いまだに書籍などの印刷物としてアーカイブされています。次世代の国際的情報共有インフラは、デジタル時代にふさわしい「未来の本」の利用環境を提供して、それを活用した国際文化交流を推進するものとなることが期待されています。

このシンポジウムでは、書籍の電子化や電子的な読書環境に深く関わるプロジェクト推進者の参加を仰ぎ、技術的なトレンドや国際的な連携実現のためにクリアすべき課題などについて議論します。「本の未来」と「未来の本」についての刺激的なフォーラムを目指します。

開催日時:平成17年3月25日(金) 13時30分~18時

会場:学術総合センター 一橋記念講堂(東京都千代田区一ツ橋)

参加費:無料(ホームページより登録が必要です。)

NII国際シンポジウムの詳細は、次のホームページをご覧ください。 <http://www.nii.ac.jp/intsympo/>

(国際課)

## ■ 名誉教授の称号授与

平成16年12月14日(火)に、小野 欽司先生(現国立情報学研究所特任教授、早稲田大学客員教授)、羽鳥 光俊先生(現中央大学教授)に当研究所名誉教授の称号が授与されました。

小野先生は、国際電信電話株式会社の研究所長を経て、平成5年4月に学術情報センター(国立情報学研究所の前身)システム系教授に就任され、平成7年4月に研究開発部長、平成12年4月の国立情報学研究所の創設に伴い、情報基盤研究系教授並びに研究総主幹に就任、平成16年3月31日をもって定年により退官されました。

羽鳥先生は、東京大学工学部教授を経て、平成11年3月に学術情報センターシステム研究系教授に就任され、平成12年4月の国立情報学研究所の創設に伴い、情報メディア研究系教授並びに開発・事業部長に就任、平成16年3月31日をもって定年により退官されました。

両先生におかれては、学術情報センターの改組、国立情報学研究所の創設に御尽力いただき、また、情報学分野の研究開発や本研究所の運営・発展に御貢献され、その功績をたたえて、今回の名誉教授の称号授与となったものです。

(総務課)



平成16年12月14日に行われた名誉教授称号授与式  
小野先生、羽鳥先生を囲んでの記念写真

## ■ 国立情報学研究所永年勤続者表彰について

平成16年度の国立情報学研究所永年勤続者の表彰が、平成16年11月19日(金)に所長室において行われました。

この表彰は、前身の学術情報センターを含めて本研究所に20年以上勤務した事務系職員を対象として、毎年勤労感謝の日に行われるものです。

今年度の被表彰者の船渡川 清 管理部会計課課長補佐には、末松 所長から永年の勤務に対する慰労と感謝の言葉が述べられ、表彰状のほか記念品が贈呈されました。

(総務課)



船渡川 課長補佐を囲んでの記念写真

## 情報・システム研究機構 知的財産本部ニュース

### 大学共同利用機関 知的財産本部整備事業 知的財産形成委員会開催

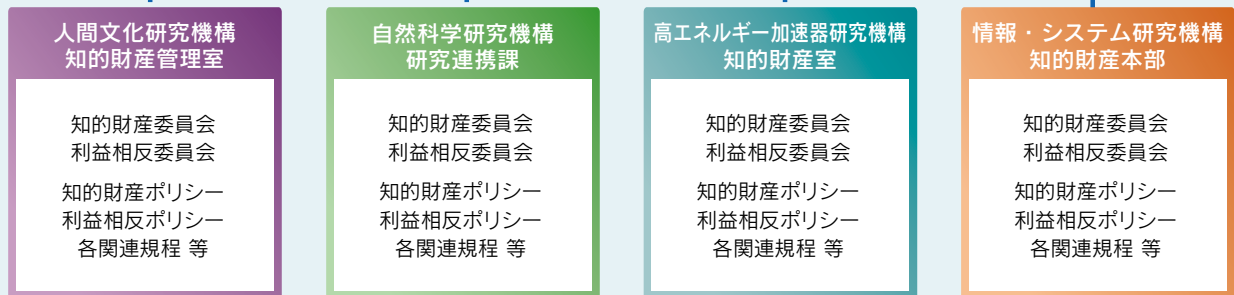
大学共同利用機関では、前号(25号)で説明したように、下図にある4機構が連携して大学共同利用機関知的財産本部整備事業を推進していますが、昨年12月に4機構の知的財産担当理事等を委員とする「大学共同利用機関知的財産本部整備事業知的財産形成委員会」が発足し、同12月20日に第1回目の委員会を開催しました。

本委員会は、4機構の連合体として事業を行うための最上位の委員会であり、事業の推進およびそれに必要な重要事項のとりまとめをしていきます。この委員会の下に実務者や知的財産担当者等からなる大学共同利用機関知的財産本部整備事業全体小委員会と大学共同利用機関知的財産本部整備事業連絡小委員会を置き、4機構で情報を共有しつつ協力して活動していく体制が強化されました。

### 大学共同利用機関 知的財産本部 整備事業

#### 大学共同利用機関 知的財産本部 <sup>(\*)</sup>

- (人材配置) 情報・システム研究機構の下記職員が兼務  
知的財産マネージャー、知的財産サブマネージャー、事務員
- (事業推進) 大学共同利用機関 知的財産本部整備事業 知的財産形成委員会
- (実務連携) 大学共同利用機関 知的財産本部整備事業 全体小委員会(年1回開催)  
大学共同利用機関 知的財産本部整備事業 連絡小委員会(年6回開催)



(\*) 実行組織は代表機関である情報・システム研究機構 知的財産本部に設置する

(情報・システム研究機構 知的財産本部)

## お知らせ

### ■ 学術情報ネットワーク (SINET/スーパーSINET) に関するご意見・ご要望の募集

■ ※詳細についてはホームページ URL [http://www.sinet.ad.jp/sinet/info/05\\_01\\_18.html](http://www.sinet.ad.jp/sinet/info/05_01_18.html) でお知らせしています。

### ■ 第3回 NII国際シンポジウム「e-バイオロジーイニシアティブ:新しい生物学の開拓」

日程：平成16年 3月11日(金)

会場：東京大学 武田ホール/本郷キャンパス浅野地区 武田先端知ビル 5階 (東京都文京区弥生)

※詳細については本紙P.14及び、ホームページ URL <http://www.nii.ac.jp/intsympo> でお知らせしています。

### ■ 第4回 NII国際シンポジウム「本の未来・未来の本についてのシンポジウム」

日程：平成16年 3月25日(金)

会場：学術総合センター 一ツ橋記念講堂 (東京都千代田区一ツ橋)

※詳細については本紙P.14及び、ホームページ URL <http://www.nii.ac.jp/intsympo> でお知らせしています。

### ■ 平成17年度 国立情報学研究所オープンハウス

日程：平成16年 6月 2日(木)～ 3日(金)

会場：学術総合センター 1・2階 (東京都千代田区一ツ橋)

※詳細については、決まり次第お知らせします。



国立情報学研究所の研究・事業活動について  
詳しくはホームページもご覧ください。

<http://www.nii.ac.jp/index-j.html>

国立情報学研究所ニュース 第26号 <平成17年 2月>

発行/大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

国立情報学研究所 National Institute of Informatics

国立情報学研究所ニュースに関するお問い合わせは広報普及課 企画・広報係まで

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター

TEL: 03-4212-2135 E-mail: kouhou@nii.ac.jp